



世界経済フォーラム（ダボス会議）における デュポンCEOの食糧安全保障に関する見解

2014年1月30日

世界経済フォーラム年次総会（通称ダボス会議）で1月23日、世界の食糧安全保障に多大な影響を及ぼす環境・社会・経済力をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、デュポン会長兼最高経営責任者のエレン・クルマンがパネルメンバーとして参加しました。

このディスカッションは、気候・気象パターンの変動、世界の新しい中産階級の需要への対応、効率的な農業バリューチェーンの強化にテーマを絞り進められました。

この中でクルマンは次のように述べています。「デュポンは食糧安全保障という世界的な課題に対し独自の科学力で取り組んでいます。当社の製品ポートフォリオは、農業と栄養産業の成長に貢献し、より価値の高い製品・サービスの提供に重点を置いた構成に進化してきました。当社は、サプライチェーン全体にわたるイノベーションを通して、増え続ける世界の人口の食糧確保に包括的に取り組むことことで、食糧安全保障に関して優位な立場を築いています。地球規模の農業生産性向上に取り組み、新たな食品・栄養ソリューションを提案し、食の安全確保と廃棄食品を削減するための手段を見出すこと、これらはいずれも当社の重要な戦略の一部をなしています」

「世界の人口は2050年までに20億人増えると予想されており、とくにサハラ以南と東南アジアでの増加が顕著ですが、これらの地域では現在も人口約8億5,000万人の大半が慢性的な栄養不足の状態にあります。農業生産は増加するものの、こうした地域の総合的な開発を加速させ、経済発展に重点的に取り組む必要があります。経済発展による所得の増加に伴って、食品を輸入する経済的余力が生まれることで、貿易政策の改善・食品の自由な流通・農業食品システムとバリューチェーンの確立・食品の保存可能期間や鮮度の向上、入手できる食品の種類拡充のための新たな手段の開発、健康的な食生活を奨励する栄養教育の提供などが可能になります」

デュポンはその戦略により、世界中で変化する栽培条件を理解し適応するための革新的なテクノロジーと協力関係を確立してきたと、クルマンは述べています。公的／民間組織との多様なパートナーシップを築き、さまざまなセクターをまたいで積極的に協力し、効果を上げることに取り組んでいます。たとえばアフリカではUSAIDとのパートナーシップを強化しており、3年間で約35,000のトウモロコシ小自作農家の所得増、種子流通網の拡大を目指しています。



クルマンはまた、ガーナとエチオピアでのプロジェクトをもとに、USAIDと技術協力関係を締結したことも発表しました。これにより、より安全性が高く革新的な農業新技術を農家に提供することが可能となり、世界の飢餓と貧困の改善に貢献することを目指しています。

このパネルディスカッションは、米国国際開発庁 (USAID) のラジブ・シャー長官が司会を務め、エチオピアのハイレマリアム・デサレン首相、国際食糧政策研究所 (IFPRI) のシェンジェン・ファン所長、Bharat Krishak Samaj のアジャイ・ヴィール・ジャーカル会長、スイス・リインシュアランス・カンパニー・リミテッドのミシェル・M・リエス グループ最高経営責任者も参加しました。

デュポンは1802年の創業以来、世界最高水準の科学技術を基盤に、革新的な製品や素材、サービスを提案しています。お客様や政府、NGO、オピニオンリーダーとの連携を通じ、世界中の人々に十分に安全な食糧を提供すること、化石燃料依存からの脱却、人と環境の保護など、世界的な課題へのソリューションを見出すご提案が出来ると思っております。デュポンの取り組みに関する詳細は、<http://www.dupont.co.jp> (米国サイト：<http://www.dupont.com>) をご覧ください

#

この件に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

デュポン株式会社 広報部：持田

電話(03)5521-8484